



## 歴史総合 新訂版

1年間でやりきれるコンパクトな  
構成と豊富な史資料

青山学院高等部 西村 嘉高

時間が足りない…歴史総合を担当する教員から一番聞く言葉です。この悩みに応える教科書がこの『歴史総合 新訂版』です。その特長を紹介しましょう。

まずは「足し算」のできる見開き2ページずつの42単元構成。歴史総合に実際に割ける時間は50時間程度。本書のコンパクトさで十分こなせます。テーマを深掘りする「歴史のひろば」、歴史的思考力を鍛える「アクティブ」の合計23の特集ページや、「トピック」、「Link」といったコラムによって、教員が生徒の興味・関心に寄り添った「足し算」をできるように工夫がなされています。

そして構成と問いの改善。改訂前は3節あった日本の近世を2節にまとめ、新たにユーラシアの結合や大西洋三角貿易、啓蒙思想を第3節で扱い、第4節以降の産業革命やアメリカ独立、フランス革命に無理なく接続できるようにしました。問いも「トライ!」を授業で無理なく取り組める難易度に改善するとともに、「まとめる」、「比べる」、「深める」、「調べる」の4つに分類し、課題を明確にすることで生徒が答えやすくしました。それでも問いが難しいと感じる生徒のためには、作業を中心とした問いの「ワーク」を用意しました。

ご好評いただいた「資料の読み解きトレーニング」も絵画資料、文字資料のページに加え、新たに日本の生糸生産に関する統計資料のページを増設しました。世界史的な視点だけでなく、日本史的な視点からも考察を深められます。もちろん日本だけでなく、世界の生糸需要との関連もグラフで示し、世界との関係にも配慮しました。歴史教育の研究会に出席すると、絵画資料による新たな実践、今まであまり活用されなかった文字資料に新たな光を当てた実践がたくさん紹介されていま

す。しかし統計資料はどうか。歴史総合と同じく必修科目である地理総合・公共との連携を深めるためにも、統計資料の読み取りは重要です。増設されたページでは、折れ線グラフ、円グラフなどさまざまなグラフを扱い、今までの歴史教科書に不足していた生徒の統計読解能力を高める工夫がなされています。

さらに「巻末ワーク」の新設。教科書と切り離して活用できます。中学の知識を確認するクロスワード、自学自習ができるテーマ学習のページ、解答へ導くQRコンテンツも充実。現代的な課題である、ロシアとウクライナの戦争やパレスティナ問題の特集ページも用意。なかなか扱えないが本当は扱いたい現代の問題にも深く切り込めます。試験休みや夏休みなどの自学自習用としても活用でき、授業時間の少なさを補います。また指導者用デジタルコンテンツでは、指導の手引きやグループワーク実践例を収録しており、教員の負担軽減に配慮しています。『歴史総合 新訂版』は現場で日頃教育実践をしている高校教員が執筆の中心を担っています。本文や特集ページなどに、執筆者の実践経験がふんだんに盛り込まれています。筆者も生徒の表情を思い浮かべながら執筆しました。

高等学校の学習は中学校の学習を前提としていますが、実際は…忘れていることが多々あります。折込に復習用の年表、各章の扉のページには、中学校までの知識の確認を助けるQRコードを新設し、無理なく復習できるようにしました。

また従来の教科書は、ジェンダーについて特集ページを配置してきましたが、本書は改訂前から、重要なテーマを特殊化するのではなく、本文中に自然に配置することを心がけました。冒頭の「歴史の扉」では「ダンスからみるいまと昔」を置いて、女性の踊り、男性の踊り、男女が参加する舞踏会を紹介しています。コラムでもジェンダーバランスに配慮しています。

たくさんの工夫がちりばめられた本書を活用され、少ない授業時間の中で充実した学習ができるよう一緒に頑張っていければと思います。